

小林 一三の言葉

出世の道は信用を得ることである。

第一の条件は正直でなければならぬ。あの人には気を許すことができないと言われるようでは信用は得られぬ。

第二の条件は礼儀を知っていることである。粗暴な言辞、荒っぽい動作では、これまた信用は得られない。

第三の条件は物事を迅速、正確に処理する能力があるかどうかである。頼まれた仕事を催促されるようでは、やはり信用が得られない。

小林 一三(こばやし いちぞう/1873年1月3日-1957年1月25日)は、阪急電鉄や宝塚歌劇団をはじめとする現在の阪急阪神東宝グループ創業者の一人です。鉄道経営と沿線開発等を総合的に展開する現代の私鉄経営のビジネスモデルを作った人物として著名な方で、ビジネスに係る数々の箴言(しんげん)も残しています。

さて、「出世」の道を目指すかどうかにかかわらず、ここで小林が掲げている内容は、仕事をする上で基本的で重要な視点が込められていると思います。以前にもお話ししましたが、「無信不立(信なくば立たず)」という言葉があるように、私は仕事をする上で何よりも重要なものは、「信用」だと思っています。小林は、この「信用」を得るために、「正直」、「礼儀」、「能力」という三つの条件(要素)を挙げています。

まず、「正直」というのは、裏を返せば「うそをつかない」、「ごまかさない」ということです。うその何がいけないか。まず、「うそをついてはいけない」という倫理的な問題がもちろんあるわけですが、現実的な面から見ても、例えば、うそをつくと、後になってそのうそが判明したときに、うそをついたことの一時的なメリットの何倍ものデメリットがその人に跳ね返ってくるものです。また、一旦うそをついてしまうと、それを取り繕うためにうそをつき続けざるを得ないような状況になることが多く、いわば「うそのスパイラル」のような状態に陥り、二度と取返しのつかないような事態になってしまうこともあります。

次に、「礼儀」ですが、これは職業人としてのビジネスマナーをわきまえることは当然のこととして、特に部下を持つ方々については、ハラスメントの防止の観点からも十分に留意していただく必要があると思います。一般的に、「粗暴な言辞」を使わないことは比較的注意していても、「荒っぽい動作」は無意識にしてしまうこともあるので、意識的に注意することが必要です。極端な例ですが、怒りにまかせ、書類を投げて渡す、引き出しを乱暴に閉める、机やゴミ箱を蹴るなどはもってのほかです。

最後に、「物事を迅速、正確に処理する能力」についてですが、これは、計画性や仕事の優先順位に関係してくると思います。仕事を計画的に進めていても、時には同時に多くの仕事を抱えることもあり、そうした中であっては、全ての仕事を「迅速、正確に処理する」ことには、時間的にも能力的にも限界があります。その際に大事なことは、仕事の優先順位(プライオリティ)です。特に、通常の仕事以外の仕事を上司から指示された際には、「その仕事が急ぎかどうか」や「いつまでに処理しなければいけないか」などを確認する習慣を身につけていただくのが良いと思います。

(文中敬称略)

令和5(2023)年6月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス
理事長 松井 聡 明